

# 名古屋経済大学短期大学部キャリアデザイン学科の 達成度評価報告

平成20年9月18日

## 達成度評価結果

学校法人市邨学園が設置する名古屋経済大学短期大学部キャリアデザイン学科は、平成16年度、本協会の地域総合科学科（総称）としての適格認定評価を受けて適格と認定されており、当該学科が平成18年度に完成年度を経たことから、自己点検・相互評価推進委員会において達成度評価を実施した。

地域総合科学科の有すべき特性に鑑み、その達成度について評価を行ったところ、当該学科が所期の目的に従って教育を実施し、以下の成果を挙げていることが確認された。今後も本協会の短期大学間相互評価などの取り組みを通して、教育の質の向上・充実に努められることを期待する。

## I. 総評

名古屋経済大学短期大学部は、現在、キャリアデザイン学科（入学定員200名）及び保育科（入学定員150名）を設置しており、評価対象であるキャリアデザイン学科は、平成16年度に商経科（入学定員160名）、生活文化学科生活文化専攻（入学定員60名）及び現代コミュニケーション学科（入学定員100名）を統合改組して、平成17年度に開設された学科である（開設時の入学定員は250名、平成19年度から200名）。

キャリアデザイン学科は学習者がより普遍的な価値観に基づいて主体的、総合的に学び、考え、自らの人生（キャリア）を自ら設計（デザイン）して切り開く能力を備えた人材の養成を日指し設置された。カリキュラムは（1）教養教育の重視、（2）職業観・職業意識の涵養、（3）学習者の多様な期待に柔軟に対応、（4）生涯学習支援を日標に構成されている。

現在の定員充足率は十分とはいいがたいが、改組前よりも充足率は多少向上し、開設から3年を経過した現在、高校生一般に対する認知度が上がってきているとみられる。平成19年度には「若年者就職基礎能力支援事業（YES－プログラム）」（厚生労働省）に準拠したカリキュラムを導入し、同年度には文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」にも採択されるなど、新しいニーズに対応する意欲がみられる。

## II. 目的の達成状況

### 1. 成果が挙げられていると評価される事項・優れた成果と判断される事項

学生一人ひとりに対するきめ細かな履修指導は、14の履修モデルそれぞれに教員のアドバイザーを置き相談に応ずると同時に、当該学科の特徴でもあるゼミ教育で担当者がアドバイスを与えることにより行われている。このように一人ひとりの学生を大事にする指導が就職決定率にも表われているものと思われる。当該学科完成年度である平成18年度の就職率は95.3%であり、平成19年度は2月末時点で前年比+4.6%である。このように、就職指導が順調に行われていると推察され、出口管理も十分行われていると判断される。

社会人に対する「訪問介護員養成研修」も年度ごとに増加しており、さらに平成18年度から実施されている生涯学習講座の参加者も平成18年度の71名から平成19年度には166名と増加しており、地域社会への貢献も順調に推移している。

教員の意識改革も全員が高等学校訪問を担当し、「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」・現代GPに取り組み、FD研究会などを通して全教員が一丸となって取り組む協力体制が構築されつつあり、今後に期待が持てる。

### 2. 当該学科開設後に計画して実施した改善・工夫点

厚生労働省が所管する「若年者就職基礎能力支援事業(YES - プログラム)」に準拠したカリキュラムを導入するのみではなく、実践的総合キャリア教育を構想し、社会人基礎力の育成とそのため効果的な方法の開発に取り組み、その成果を「各種メディアを活用した社会人基礎力の育成」プログラムにまとめ、平成19年度現代GPに採択されたことは評価に値するものである。

キャリアデザイン支援室を設け、キャリアに関わる図書、DVDなどの資料を整えると共に、PCを設置し、学生が自由に利用できる配慮がなされている。さらに支援室実践講座を5講座設け、学生のキャリアデザインを支援する工夫も行われている。

現在、14の履修モデルが設けられているが、カリキュラム構成を簡素化し、学科専門科目全体を①キャリア発見科目、②社会人基礎カアップ科目、③スキルアップ科目の3つに分類し、7つの履修推奨コースを提示する方法への変更が予定されており、カリキュラム改革にも意欲的に取り組んでいる。

### 3. 適格認定評価時に受けた指摘事項への対応

カリキュラムの履修指導については、履修モデルごとにその目標、授業内容、関連する資格・進路の説明と推奨される科目をまとめた『キャリアデザイン学科履修ガイド』を作成し、履修指導を徹底している。そして各履修モデルにはそれぞれアドバイザー教員が示されており、学生の相談に応ずる体制が整備されている。

「EUC概論」などの略号の科目については、括弧書きなどで高校生にも理解しやすい表示が求められていたが、科目名の変更は行わず、教務ガイダンス、専門ゼミにおける履修指導で学生に内容が理解できるよう説明が施されている。

ゼミにおける教員の共通理解に基づいた指導体制を整備するために、ゼミ担当者会議を設け意思の疎通を図ると同時に、全ゼミ合同参加の諸行事の準備と実施をみている。

社会人の募集に対して、生涯学習講座や訪問介護員養成研修を通して広報すると同時に、犬山市の「広報いぬやま」への講座案内の掲載や周辺地域への新聞折込によって周知を図っている。社会人の募集は十分な成果が挙がっていないようであるが、高校生への当該学科の認知度が徐々に上がってきていると認められ、今後が期待される。

#### 4.その他

当該学科は平成21年度より名古屋駅前に立地するサテライトキャンパスに移転することが計画されている。現在のキャンパスは都会から離れた丘陵地にあり、志願者が当該短期大学を選択する際にマイナス要素となることが懸念されている。交通の便がよい名古屋駅前にキャンパスができることになれば、生涯教育の面を含め、これまで開拓できなかった層に浸透することが期待され、新たなニーズに応え、当該学科を発展させる起爆剤になることも期待される。